

第2章 文化施設の目指すべき姿

当市には、旧石器時代から中世、そして水戸街道の宿場として栄えた近世の宿場跡に至るまで、約90箇所の遺跡があります。埋蔵文化財センターは市内の遺跡の調査や保護・保全の中核として開館し、現在では、市内から出土した埋蔵文化財の調査・研究に限らず、市史の編さん事業などで収集した歴史資料の保存・活用も行い、生涯学習の拠点となるような活動をしています。民俗資料収蔵庫は、市民から寄贈された貴重な民具や農具を収蔵し、学校での授業や郷土史の学習に活用しています。

文化施設は、これらの貴重な文化遺産を保存・活用し、将来に伝えていく施設であり、今後も適切な維持管理を実施していく必要があります。

これらを踏まえて、以下のとおり文化施設の目指すべき姿となる(1)から(4)を設定します。

(1) 安全安心な施設

埋蔵文化財や郷土資料を収集・整理・保存し、調査研究、公開、教育普及を行う唯一の施設であり、今後も維持していく必要があることから、劣化が進む箇所の機能回復など、老朽化する施設に適切な保全を行うことで、貴重な文化遺産を将来に引継ぎ、利用者にとっても安全安心な施設を目指します。

(2) 生涯学習の拠点としての施設

企画展やイベントを通じて、埋蔵文化財や郷土資料を市民等へ広めていくため、障害の有無、年齢、性別等にかかわらず、誰もが利用しやすい環境の整備を進めるなど、良好な生涯学習環境の維持・向上を図り、将来へ引き継いでいく施設を目指します。

(3) 持続可能な施設

設備の更新、改修時においては、省エネルギー性能の優れた設備導入などにより、環境負荷の低減に配慮した、持続可能な施設を目指します。

(4) 環境変化に対応した施設

長寿命化や建て替えを検討する際は、改修コストと保全コストのバランスを考慮し、環境の変化に対応した施設を目指します。

参考として、「取手市公共施設等総合管理計画」(平成 28 年(2016)7月策定)に掲載されている文化施設の課題の内、未対応の課題と、改善の方向性は以下のとおりです。

課題

- ・ 埋蔵文化財センターは、埋蔵文化財や郷土資料を収集・整理・保存し、調査研究、公開、教育普及を行う市内唯一の施設であり、今後ともこの機能を維持していく必要があります。
- ・ 県指定文化財の旧取手宿本陣染野家住宅は、文化財的な価値を維持するための関連する法令に則り、安全を確保しつつ維持管理を継続していく必要があります。

改善の方向性

- ・ 埋蔵文化財センターは、埋蔵文化財や郷土資料の収集・保存・整理・調査研究・展示・教育普及を行う唯一の施設として、社会的な必要性を踏まえ、今後も適切な維持管理を実施していきます。
- ・ 埋蔵文化財センターは、地域の歴史や文化を学習する場として一層活用できるよう、学校教育との連携をさらに強化していきます。